



福谷章子

市民ネットワーク Vol.59 ふくだにしょうこ 福谷章子の街づくり通信

福谷章子 blog <http://fukutani.blog.ocn.ne.jp/blog/>

発行：市民ネットワーク
編集：市民ネットワーク・みどり
〒266-0031
千葉市緑区おゆみ野 3-40-8
河野ビル 101号
Tel&Fax：043-293-8011
E-mail：midori@chibanet.jp

行政事務委託費

千葉市から自治会への広報物配布料。
毎年、総額1億2千万円が支払われていました。

市長原案

世帯あたり 400 円を
300 円に下げると
3千万円の経費削減
になります。

三会派(自・公・新) 修正案

委託費の減少は住民自治を
後退させる。市連協から要
望書が出ているので、
400 円 / 世帯のままとする。

自治の基本は財政の自立であることから、
委託と自治とは相反するものではないでしょうか。

三会派が共闘してこだわったものは何だったのか。一部同意できる部分もありますが、しかし千葉市の財政事情、そう言った経緯、今後の地域自治と自立に向けての方向性を併せて考えれば、いずれも賛成できるものはありませんでした。

三会は、市長提案の原案を修正するために、終盤二日間の深夜に及ぶ大激論を交わして(この様子は千葉市議会ホームページの議会録画から視聴できます) 予算を決めました。その議論や修正の内容が、真に市民全体や千葉市の将来像を見据えたものかどうかの判断を市民に仰がねばなりません。多くのご意見が寄せられることを期待して報告をまとめました。

平成22年度の千葉市予算は、自民党(20人) 公明党(8人) 新政ちば(議長を除いて2人)の三会派によって一部修正され、賛成多数で可決されました。

修正、可決された予算！ これでいいのか？

はり・きゅう・マッサージの施術料補助

この事業は、65歳以上の方に年間24枚の利用券を渡していたものですが、これまでの予算は1億2千600万円で、利用は50%程度でした。

市長原案

本人所得200万円未満の
65歳以上の市民を対象とし、
年間限度枚数を24枚から6枚に。

3千800万円程度で
すむ予定

三会派(自・公・新) 修正案

利用券の限度6枚を
10枚に戻して激変緩和を図る。

2千万円の上積み

これによって慢性的な痛みが緩和され外出もしやすくなるという現状があります。利用実態を検証することなく結論は出せないとは思いますが、財源が枯渇する中で工夫が求められたものでした。

敬老会の弁当代

敬老会の開催にあたっては、70歳以上の方に、
830円を弁当代として支出していました。

市長原案

22年度は、
75歳以上の方に、
500円のお弁当代。

三会派(自・公・新) 修正案

いや、
一人650円にしよう。
1千万円必要になる

敬老の日の集いは喜ばしいことだけれど、慶事に予算をばらまくのは税金の使い方として有効だとは思えません。

予算額は同じでも不可解！

修正案の四つ目は、科学の都に関する事業費80万円を総務費から商工費に移すという提案です。これは何度も説明を求めましたが、移すことの意味がわかりません。科学の都はイメージ戦略ではなく事業だから、地域産業振興戦略として地域産業支援事業費へ移すというものです。

しかし、その内容を聞いてみれば、80万円は来年からどうするか話そうために使うと。ならば、地域経済という狭い範囲ではなく、経済、教育、文化も視野に入れた検討ができるように、総務費で支出をした方が、市民にとっては可能性も多様性も保障されて将来につながるはずですよ。

予備費しか削れない

これらの修正は、三つの事業費を市長原案から増額する、しかし予算総額は変えられないということで、財源は予備費を削るしかありません。その金額は3事業で6千万円です。そのために22年度の予備費は2億4千万円となります。千葉市の過去5年間の、予備費からの支出は平均2億1千万円ですが、2億9千万円を支出した年度もあります。21年度は新型インフルエンザが流行し、このための緊急支出も予備費が使われました。まさに市民の命と健康の危機や、不測の事態に緊急に支出される財源が予備費なのです。

予備費を削ることについては、提出者も不本意で苦渋の選択のこと。予備費を削つてまで戻した事業費は、それがなければ、健康で文化的な市民生活は守れないのか、すべての市民の最低限度の生活を補償できないものなのか、それが問題なのです。

大山鳴動してネズミ一匹

今回の議会は、予算審査特別委員会においても、分科会は、3日間とも夜遅くまで審査が行われ、指摘要望事項も物別れとなつてまとまりませんでした。また、採決をする本会議も深夜まで及び、議会運営委員会が異例に開催される事態もありました。まさに、議会がその権能を発揮するために覚悟したと言えます。しかし、その内容は、大山鳴動してネズミ一匹、しかもそのネズミが市民の細い生命線をかじるかもしれないという状況です。

難局を乗り切るために

このような状況に至った要因の一つとして、情報の公開が格段に進んだことが挙げられます。千葉市でもパブリックコメントや予算編成過程の公開など、取り組みは進んできました。さらに、市長の交代によって情報発信の手法やタイミングがより市民に身近なものへと工夫されています。また、タウンミーティングやインターネットモニターなど、市民意見の発信の機会も増えました。すでに、議会がひとり情報を持っていく時代ではありません。議会内の多数の論理、市連協からの住民合意前提の要望書など、民主主義の在り方を考えさせられる事態に向き合いながら、今後の市民自治(住民自治)と議会の在り方について変貌の兆しを感じています。

区長訪問

行ってきました！

住民が困ったときかけこめる場、社会的弱者をしっかりと守れる場、最終的にはそれが区役所の役割。その上でこれから区に求められるのは、地域との協働。様々な地域団体を結び、その力をより発揮しやすいように調整するものがほしい。

今までは区役所は本庁の出先機関であったが、これからはもっと地域性を高めるため、区の積極的な活動が望まれている。本庁との連携を強めながら各区の独自性を出していきたい。



武石区長

これからの課題は地域との協働

2月15日(月) 緑区役所を訪問し、
武石区長等と主に区役所の役割について意見交換会を行ってきました。

身近な区役所に、地域の活動の拠点が作れないか。単なるスペース貸しではなく、印刷機なども使え、他の団体の情報なども得られる地域力の拠点が区役所にほしい。

その他、駐輪場に害のあるムクドリの問題(別枠、ムクドリの記事参照)、公共交通について意見交換をさせていただきました。